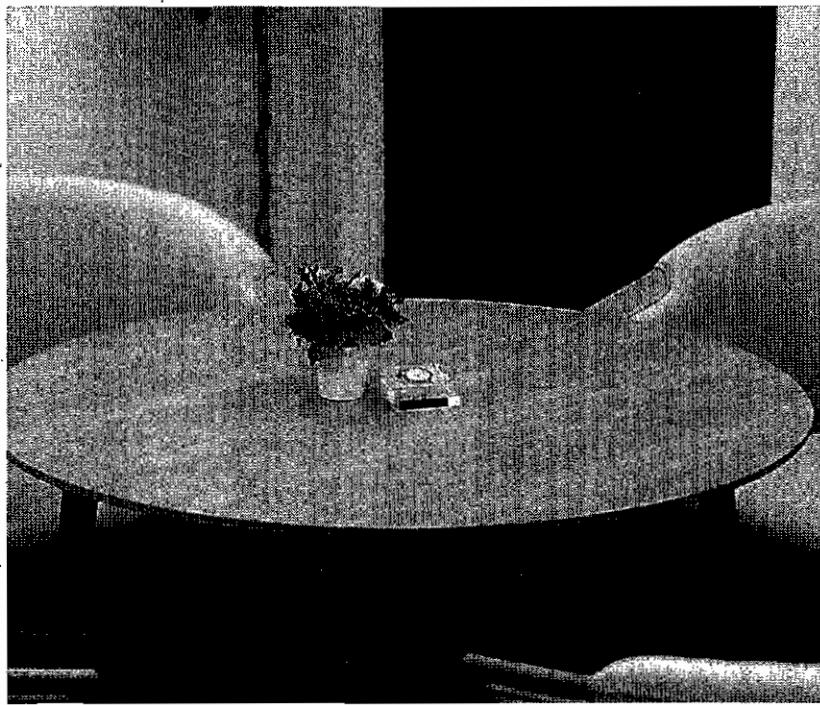


分野に応じた学生支援を



丸く落ち着いた雰囲気で相談できる経済・学生サポートルーム

●経済・学生サポートルーム
△の目標
「このサポートルームでは、特に『予防』というこ
とに力を入れたい」と話す
のは、経済・学生サポートルームの室長を務める神谷和也教授（経済学研究科）。
学生の悩みや相談事が積も
り積もって大ごとになる前

に、気軽に話せる空間で、
消の手助けをしたい」という
考えだ。

経済・サポートルームで
の特徴的な相談の一つは、
就職活動関係のものだとへ
う。適正職業の決め方や、
自己アピールのための分
析、エントリーシートの書
き方などだ。同室のスタッフ

ついで臨床心理士の海老原裕子さんによれば、就職や進学などに迷走に対する具体的なアドバイスの要望も多い」と分析する。しかし、その一方で「本音を吐きだす部分もあるのです」と話すのは、同じスタッフで臨床心理士の平野真理さん。何かじつめが

経済学研究科・経済学部内に今年4月、学生サポートルームが開設された。学部・研究科単位での学生支援組織は、法・理に統じて3番目となる。東京大学新聞社では今回、本郷で専門課程を専攻する学生の相談を受け付けてくる経済・法・理それぞれの学生支援組織を取り材。学部・研究科などの学生支援体制がなぜ求められているのか探つた。

が開設された。専
門が開設された。専
門になる。東京大学新
設している経済・社
会支援体制がなやま
(取材・添置久)

学生の近くに常駐

ついで臨床心理士の海老根理
絵さんは「経済の学生は、

整理され、解決に結び

ら」と神谷教授は展望を語る。

「心も学生をよく見
けた」と云つ。

か
関する話題を中心たが一理
学が基礎科学であるため

「期待に応えねば」

●法学部・理学部で学生が立ち向かうものは、法学部学習相談室に問い合わせたところ、法学部生が悩むを持つときには、真面目さが軽じて「法科大学院に進学しなければならない、親や周囲の期待に応えなければならぬ」という義理も少なくないう。本当に欲求を見失うケースも少なくて、法学部では必修科目が多く、高度な内容を扱う授業ばかりで、留学生の比率も全学部中最も高く、4年生の3分の1にも上る。相談内容としても「進路問題」

職」「学習」「法科大学院」といった項目に次いで、「卒業」という項目についての相談が少なくない。それは、卒業できるかどうか不安だという悩みや、卒位を予定していたが必要な地位を取得できずに留年や学になってしまったケース

、い、
また、理系組織として研
究室一心の活動時間が長い
ため、研究室選びに迷つ・
進学すべきが迷つといつた
もののか、研究室特有の雰
囲気になじめなし・指導教
員との関係に悩んでいる、
といった悩みが挙がる。

固有の悩みに対応を

ないかもしないといふ不安感との葛藤に悩む学生が

の悩みに

対応を

各学部の学生支援体制			
	開室日時	場所	スタッフ数 (臨床心理士数)
経済	水・金 10:00-13:00 14:00-17:00	赤門総合研究棟 6階640号室	2人 (2人)
法	月・水・木・金 9:30-12:30 13:30-16:30	法文1号館 3階B5演習室向かい	3人 (2人)
理	平日 10:00-13:00 14:00-17:00	理学部1号館 2階237号室	4人 (4人)

法学部では、法科大学院・●学部との支援体制のことで、や国家公務員といった同じ、これから目標に向かっている学生が多い。そのような周囲の環境で、ポートする手だけは、どの

組織でも大きな課題だ
「本部」支援を必要とし
いる学生にどうすれば支
の手を差し伸べることが

境がそれぞれの学生の気質を育むからだと分かる。学部・研究科ごとに学生支援体制を設置すれば、それぞ

いこた声が上かる。
それでも、学部どとい
なる方向性の悩みとなる
は、先に述べたように、
それらのカリキュラムや

高い。その上で個別の学生支援体制の必要性を無視することはできず、設置の是非は検討されるべきではないだろうか。